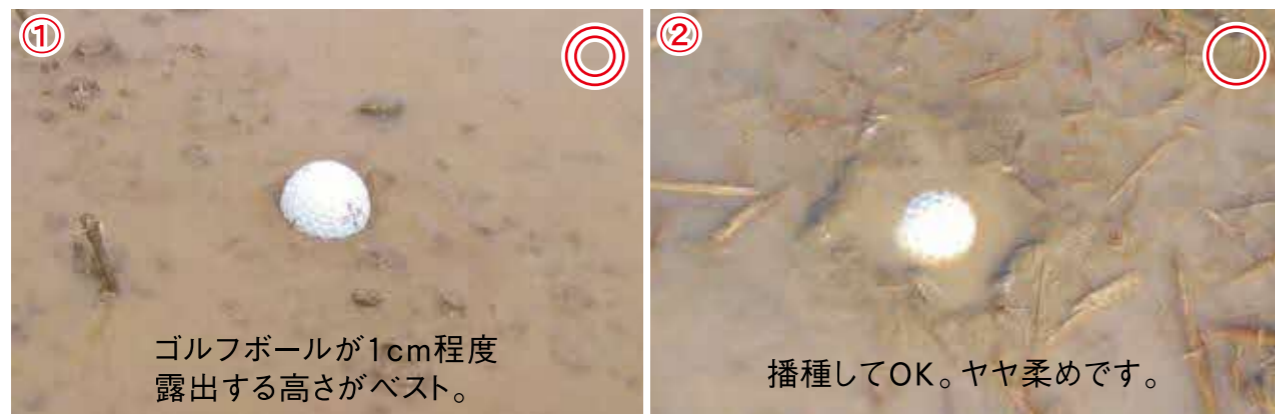


育苗立確保のポイントと水管理（湛水直播）

1. 基本

- (1) いわみざわ地域の播種適期は5月12～18日とします。
- (2) 代掻きの状態を確認し、基本は播種前日の夕方（日差しに影響を受けない）から落水を開始します。
- (3) 再入水は温度の目安を参考に、根と芽の伸長を確認してから行います。
- (4) 24時間以上の水の停滞は、酸素不足を招き、催芽途中の種子を死滅させます。



播種時のポイント

- ① 固い場合は、作業機の感度を調整し、播種溝にできるだけ土を寄せる。
- ② 柔らかくしようとするための再入水や、入水しながらの播種は厳禁！

《重要ポイント》

播種計画 稼働面積や天気を予測し、決定。	代掻き 播種2～3日前が望ましい。
--------------------------------	-----------------------------

落水 ほ場の大きさ、播種面積を考慮し、播種最初のほ場から、前日夕方より落水を開始。	代状態判断 ゴルフボールで固さを判断し、播種の是非を判断。
---	---

2. 再入水の見極め

- (1) 播種日からの温度による目安を参考にします。
- (2) 発芽の筋がうっすらと見えるまで、再入水を我慢します。
- (3) 再入水は積算温度の目安を参考に、根と芽の伸長を確認してから行います。
- (4) 予備入水処理を2回行い、3回目に5cmの水を張ります。

⑦ 1回目の入水量
水深2cm程度（芽が隠れる位）

予備入水1回目 直後

▲はイネ

筋が見えたら、根張りを確認し、1回目の予備入水開始

予備入水1回目 1日後

⑧ まだ窒息の可能性が高いので、停滞水は入水後、2日以内になくし1日程度酸素を与えましょう。

予備入水1回目 2日後

<再入水の心構え>
苗に水を与える感覚を持つ

こんな時は要注意!! 出遅れても慌てない

こんなに乾いても芽は死滅していません。入水を慌ててはいけません。

必ず掘り、芽の状態を見て入水のタイミングを図ろう!